

キャラバン・メイトとは

学んだ知識や体験などを地域、職場、学校などで町民に伝え認知症サポーターを育てる人たちです。

キャラバン・メイトの対象は、認知症介護指導者養成研修修了者や認知症介護実践リーダー研修修了者、介護相談員などで、年間10回程度を目安に認知症サポーター養成講座を開催できる人です。

2年に1回開催される講習で認知症の人への声の掛け方や認知症サポーターに教える方法を学びます。

キャラバン・メイトの皆さんは、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに向けて、関係機関・組織・団体などへの働きかけ、協力・連携体制づくりなどを推進し、地域のリーダー役を担うことが期待されています。



デイサービス祐
瀬川 綾さん

地域のみんで見守っていききたい

母がキャラバン・メイトだったのと、自分が学んできたことを地域の人たちにも広めたいと思いキャラバン・メイトになりました。地域の人たちに認知症を身近に感じてもらい、そこで学んだ人たちが認知症の人を支え、別の人に認知症の知識を広めていくような支援の輪が広がったら嬉しいです。また、多くの若い人たちが養成講座を受講して、福祉の仕事を知るきっかけにもなったらいいと思います。

認知症を支える人には認知症サポーターやアクティブサポーター、キャラバン・メイトがいます。その中でも今年7月にキャラバン・メイトになった瀬川綾さんを紹介します。



私たちが皆さんの味方です

認知症サポーター養成講座を開催します

認知症の基本知識を学ぶことができます。

- 日 時 10月26日(水) 午後1時～
- 場 所 役場1階多目的室
- 申込方法 電話か専用フォームからお申し込みください。
- 申込期限 10月7日(金)
- 申し込み 町地域包括支援センター ☎096(292)0770



申し込みはこちら▼

オレンジリング
認知症
サポーターの証

認知症サポーターになることで認知症について正しい知識を学び、オレンジリングを身に着けた応援者、サポーターとして支えていきましょう。

認知症の人を支えることができるためには、温かい目で見守ることが認知症の人を支えることではないでしょうか。

認知症サポーターになることで認知症について正しい知識を学び、オレンジリングを身に着けた応援者、サポーターとして支えていきましょう。

認知症の人を支える

家族の皆さん 相談することも一つの支援です

●問い合わせ 町地域包括支援センター

☎096(292)0770

町 地域包括支援センターは、高齢者の皆さんが地域で安心して住み続けられるよう、介護・医療・保健・福祉などさまざまな面から支援を行う総合相談窓口です。

保健師や社会福祉士、主任ケアマネジャーなどの専門職が連携して、皆さんの支援を行います。

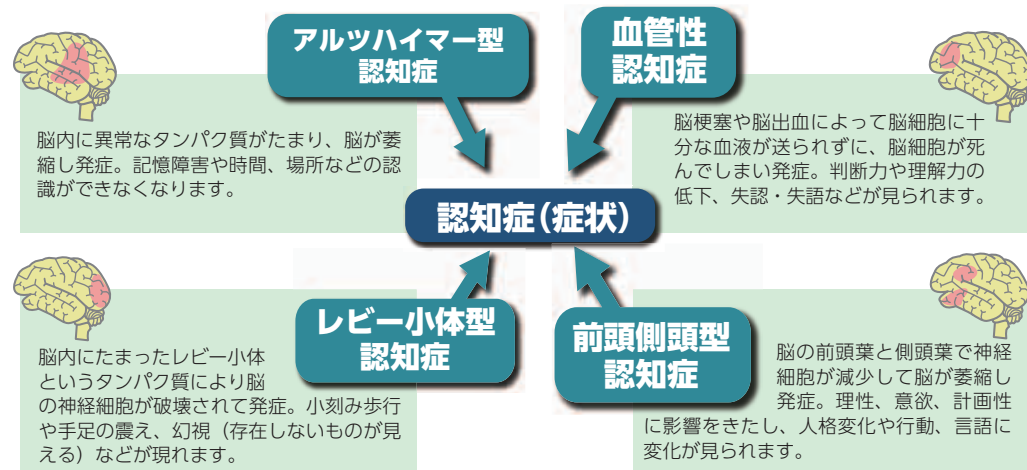
具体的な取り組みは、毎月第3木曜日に、「もの忘れ相談」を開催しています。認知症患者医療センター(菊池病院)の臨床心理士や相談員が対応し、早期発見のきっかけとなる認知症の検査を受けることができます。

「家族が認知症かもしれないけれど何もできない」「認知症の家族について強く当たってしまふ」など悩んでいるときは、まずは相談することも支えることになるのです。

#01 認知症を知る

主な認知症は4種類あります

認知症とは、さまざまな原因で脳の病気によって記憶力や判断力が低下し、日常生活に支障が出ている状態をいいます。認知症の主な4種類を知ることが大切です。



「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」の違い

加齢によるもの忘れは「体験の一部を忘れる」のに対して、認知症によるもの忘れは「体験そのものを忘れる」という特徴があります。例えば、朝ごはんは何を食べたか思い出せないのは加齢によるもの忘れで、朝ごはんを食べたこと自体を忘れてしまう場合は認知症が疑われます。

加齢による「もの忘れ」 <p>朝食は何だったっけ？</p>	認知症の「もの忘れ」 <p>朝ごはんまだ？</p>
記憶の帯 ↓ 出来事の一部が思い出せない	記憶の帯 ↓ 出来事全体が抜け落ちる
・目の前の人の名前が思い出せない ・何を食べたか思い出せない ・約束をうっかり忘れる など	・目の前の人や誰なのか分からない ・食べたことを忘れている ・約束したこと自体を忘れる など

※症状には個人差があります。